

# 女性も男性も輝いて 人間らしく働ける職場を！

大阪自治労連婦人部は6月4日に学習会を開催し、岡山市職労が実現させた「育児休業正規配置のとりくみ」の経過を岡山市職労女性部長の小松佳子さんを招き、お聞きしました。話を聞く中で、この問題は女性だけの問題ではないと、参加者全員が確信しました。

## だれもが取得しやすい育児休業に 代替正規職員配置の要求を



### 取得しにくい 育児休業の実態

育児休業者は事前に欠員になることや欠員になる期間がわかっているにも関わらず、職場に必要な定数として取り扱われ、代替職員にはアルバイト職員しか配属されない、あるいは配属自体がないため、他の職員に負担がかかってしまい、育児休業を取りにくい状況があるという事は、どこの職場にも共通の課題です。

岡山市職労では定数内として扱われることがおかしなこと、職員採用を計画的に行えば問題は解決されることを女性部のニュースや交渉で根気強く訴えていくなかで、組合員の理解が広がり要求となって、一緒に訴えることで当局側に認めさせ、代替職員を正規職員で配属させることができました。

### 女性が働きやすい職場は 男性も働きやすいから

後半のフリートークでは、各単組の状況を出し合いました。大阪府職からは30数年前に、ケースワーカーの正規代替が配置され、それが他職種にも拡大した経過。吹田市職労からは、維新市政の3年間は採用凍結で今年200人採用されたが育

休の代替が含まれているかは定かではないとの報告。東大阪市職労からは、8月から任期付の育休代替が配置されることになっている、などの現状と問題点が出されました。

現在、国家公務員の職場では、育休代替を産休から継続で可能としましたが、「任期付」では私たちの要求とは相入れません。大阪自治労連婦人部では今

秋、育休正規配置を実現するためにキャンペーンをはって取り組みを強めます。全単組と対話を重ね、丁寧な運動を進めていきたいと考えています。

女性が働きやすい職場は男性も働きやすい職場です。女性も男性も輝いて、人間らしく働ける職場をめざし、みんなの声を集め、人員要求していきましょう。

## 婦人部学習会を力に要求実現へ！

## 市民と自分のために ええ仕事がしたい！

「市民と自分のためにええ仕事がしたい」をテーマに衛都連職場・職種別交流集会在7月23日・24日、大阪市内で開催されました。職員が職場での仕事を見直す「職場自治研」として始まった交流集会在も今回で20回目を迎えました。

市民と育む  
平和で幸せな  
いのちとくらし

記念講演では二宮厚美神戸大学名誉教授が参議院選挙後の情勢のもとで、公務労働者・労働組合の可能性と期待を語りました。特別報告では前泊博盛沖縄国際大学教授から、オール沖縄で知事を支え、安倍政権と対峙している沖縄の状況から「地方自治体の役割」が大きなものになっていることが報告されました。2日目は「都市農業問題」、「市民課職場」など9つの分科会に分かれ、熱心に討論が行われました。



前泊さんを講師にむかえた特別講演では、沖縄の実態がリアルに語られた

## 歴史を刻む

### 貝塚市職労 70周年



### 岸和田市職労 70周年



戦後の民主化の流れの中で結成された府内の自治体労働組合の周年事業が取り組まれています。6月19日には貝塚市職労が70周年記念式典、6月26日には岸和田市職労70周年記念レセプション、7月24日には寝屋川市職労が60周年記念式典を開催し、諸先輩が紡いできたたたかひの歴史を引き継ぎ、労働組合の発展と新たなたたかひへの決意を固めました。

### 寝屋川市職労 60周年



## 熱くたたかろう

### 大阪自治労連軟式野球大会



好天にめぐまれた大会でした

6月9日に第28回大阪自治労連軟式野球大会が万博公園で開催され、熱戦が繰り広げられました。優勝は通算11度目となる岸和田市職労チームでした。優勝：岸和田市職労 準優勝：守口市職労 3位：寝屋川市職労・吹田市職労

### 今月のキーワード

近大ナマズのかば焼き

近畿大学水産学科で、ウナギは養殖に使う天然の稚魚(シラスウナギ)が減り、ウナギ養殖業者が困っていることを知り、代わりになる淡水魚の研究が始まりました。ドジョウ、フナからライギョ、ブルーギルまで、ひたすらかば焼きにして食べ比べ、「焼いた皮の香りがウナギに似ている」「かば焼きに適した大きさ」「養殖のしやすさ」といった点でナマズが最有力候補に浮上しました。水やえさを工夫して、昨年冬に実用化のめどが立ち、今年の夏から「ナマズのかば焼き」が市場に出まわり、私たちが食べられるようになります。うなぎ味のなますは、庶民の救世主になるか！

### 今月のキーワード

母親大会

1954年3月1日米国がビキニ環礁で水爆実験を行いました。平塚らいてふ他5人は全世界にむけて原水爆禁止の訴えを送りました。1955年スイスで世界母親大会が開催されました。日本から河崎なつを団長にあらゆる分野から代表を選び、女性14人が参加しました。帰国してから14人は日本中を歩いて報告しました。全体で2000回も報告会が開かれ参加者は70万余人、母親運動の種まきとなりました。第1回日本母親大会には2000人が参加、各地からの報告や発言、久保山愛吉さんの未亡人すすさんの訴えなどがありました。一同もらい泣きで会場は全員ひとつにとけあつた涙の大会でした。第62回を迎える今年は金沢市と福井市で開催されます。